

ホームホスピス宮崎の活動主旨に賛同し、支援しています

いしかわ内科 宮崎市神宮西1-49-1

いちはら医院 宮崎市中村東1-7-1

クリニックうしたに 宮崎市恒久5065

えとう循環器科・内科クリニック 日南市吾田西3-7-43

古賀総合病院 宮崎市池内町数太木1749-1

迫田病院 宮崎県宮崎市城ヶ崎3-2-1

潤和会記念病院 宮崎県宮崎市大字小松1119

ハートピア細見クリニック 宮崎市橘通西1-5-3

ひとえ歯科クリニック 宮崎県宮崎市大字恒久340-1

松田共同法律事務所 宮崎市別府町6-1

(順不同)

## かあさんの家開設 10 周年記念講演会

### 宮崎をホスピスに…

### と願って

会 場 メディキット県民文化センター  
(宮崎県立芸術劇場) 演劇ホール

日 時 平成 26 年 9 月 13 日 (土)

12:30～ 開 場

13:00～ 開 会

13:05～ 理事長挨拶

13:10～ 宮崎市長挨拶

13:20～ 記念講演

14:40～ シンポジウム

16:00 閉 会

主催：かあさんの家 10 周年記念事業実行委員会

特定非営利活動法人ホームホスピス宮崎

13:00 開会 総合司会 園田 潤子

13:20～記念講演

「おひとりさまでも大丈夫」

〔演者〕 上野 千鶴子 氏

社会学者・立命館大学特別招聘教授・東京大学名誉教授・認定NPO 法人ウィメンズアクションネットワーク(WAN)理事長・日本学術会議会員・京都大学大学院社会学博士課程修了。1995年から2011年3月まで東京大学大学院人文社会系研究科教授。専門は、女性学、ジェンダー研究。この分野のパイオニアであり、指導的な理論家のひとり。近年は高齢者の介護問題に関わっている。

著書『生き延びるための思想』(岩波書店)、『ニーズ中心の福祉社会へ』(共編、医学書院)、『老いる準備』(学陽書房)、『おひとりさまの老後』『男おひとりさま道』(法研)、『ケアの社会学』(太田出版)など多数。1994年『近代家族の成立と終焉』(岩波書店)でサントリー学芸賞を受賞。2012年度朝日賞を受賞。

14:40～シンポジウム

「住み慣れた地域で安心して暮らし、

安らかに看取られるために」

シンポジスト(登壇順)

「地域包括ケア(地域で支える仕組みづくり)」

厚生労働省老健局老人保健課長 迫井 正深

「宮崎の緩和ケア医療のひろがり」

宮崎市郡医師会病院内科(緩和ケア)科長 黒岩 ゆかり

「父の介護と母の看取りを経ての私の思い」

家族 内田 乃里子

「わたしの思いをつなぐノート」

宮崎市健康管理部長 伊東 芳郎

コメンテーター 上野 千鶴子

コーディネーター 市原 美穂

主催：宮崎県立総合医療センター 宮崎県立総合医療センター 宮崎県立総合医療センター

協賛：宮崎県立総合医療センター 宮崎県立総合医療センター 宮崎県立総合医療センター

かあさんの家 開設10周年記念

# 宮崎をホスピスに…と願って

「かあさんの家」は歩み続ける。

**特定非営利活動法人ホームホスピス宮崎**

ホームホスピス 宮崎が運営するかあさんの家は、現在宮崎市内に  
「曾師」「霧島」「檉」「月見ヶ丘」の四カ所があります。

## 宮崎の緩和ケア医療のひろがり

宮崎市郡医師会病院 内科(緩和ケア病棟)  
黒岩ゆかり

## 緩和ケア病棟 運営方針

- 当病棟は、「かかりつけ医」の後方の病棟として、緩和ケアの支援を行う役割を担い、原則として入院は、患者とその家族の心身の苦痛を緩和するための一時的な入院とする。
- 当病棟のチームは「かかりつけ医」に協力して、患者が可能な限り長く、できれば最後まで、家族と共に自宅で暮らせるように支援していく。

## 緩和ケア相談外来

- 患者・家族の意向の確認…意思決定支援
- 緩和ケア病棟への入院受け入れ
  - 症状緩和／在宅移行の準備／看取り
  - レスパイトケア(介護者の休息のための入院)
- 在宅療養の相談、在宅医の紹介
- 病状評価と今後の過ごし方の検討
  - 一般病棟への入院受け入れ
  - 他の入院施設の紹介

**よろず相談窓口**

## 宮崎市郡における 緩和ケアの地域ネットワーク

- かかりつけ医による在宅医療
  - 後方支援としての緩和ケア病棟
  - 多職種協働による医療と介護の連携
- ⇒ 在宅緩和ケアのネットワークから  
在宅医療・介護、地域医療のネットワークへ

## 地域緩和ケアの課題

- 施設間連携、顔の見える関係づくり
- 在宅療養のための生活支援
- 家族介護力がない患者への対応
- 既存施設での受け入れ困難な患者への対応
  - 医療療養型病床
  - 小規模多機能ホーム
- よろず相談窓口
  - 医療機関の窓口、患者サロン、患者会 など

## 「単なる延命」から「命の質」の重視へ

- QOL (quality of life)
  - Quality 質
  - Life いのち、生命、人生、生活
- QOL
  - 主観的判断
  - 本人の価値観に基づく判断
  - 本人の満足感・納得感

# “わたしの想いを つなぐノート”

(略称：わたしノート)

わたしが“わたしらしく”生ききるために…



宮崎市 MIYAZAKI CITY

名前

生年月日

※このノートの使い方は「書き方の手引き」を  
参考にしてください。

ホームホスピス「かあさんの家」のつくり方《2》

【木星舎の本】

# 暮らしの中で逝く

その〈理念〉について

市原 美穂

Ichihara Miho

並製本 / A5判 / 定価 1,600円 / ISBN978-4-901483-76-6 C0095

「ホームホスピス」が、小さなムーブメントになって広がってきました。  
「認知症」という言葉でくくられる「いのち」を、暮らしの中に迎え入れ、残照のときを慈しみ、ともに歩む人がいる「家」—。人と人のつながりを最後まで手放さないところが未来を変えられるのであれば、その試みの一つが、今、ここに始まっています。

『「かあさんの家」のつくり方』シリーズ2は、その〈理念〉について。〈運営〉〈ケア〉編に続く。



## 〈目次〉

ホームホスピスの基準づくり その〈理念〉について

「生えてきた」家／ホームホスピスの展開／ホームホスピスの基準

住まい・「家」を考える

既存の住まいの活用／生活のにおいと音がある、人の気配が感じられる空間  
地域住民にとってもなじみの環境である、他

暮らしを考える

一軒あたり五、六人の小規模である／ともに暮らす住人同士のつながりができる  
本人のもてる力に働きかける／本人の生活を支えるために必要な医療がある、他

看取りを考える

私たちの死に場所／家族の主體的な看取りを支える／看取りに至るプロセスに寄り添う  
家族を支援する／生活の延長線上にある自然死の尊重／家族の出入りが自由にできる、他

連携を考える

地域の社会資源を活用し、さまざまな職種と連携している／ケアプランには、フォー  
マル、インフォーマルが混在している／アセスメントのプロセスが見える、他

ムーブメント

地域づくりを考える

地域に開かれている／「看取りの文化」の継承を地域全体に広め、ともに死生観の醸成  
をめざす／コミュニティの再生をめざす／ホームホスピス実践リーダー研修、他

ホームホスピスの仲間 ホームホスピスオハナの家

ホームホスピスの未来 高橋 紘士

ご注文は、FAX 0985(53)6054

ホームホスピス「かあさんの家 恒久」へ（裏面）

〒880-0913 宮崎市恒久2丁目19-6 tel 0985-53-6056 fax 0985-53-6054

## 【助成事業】

かあさんの家開設 10 周年記念講演会 「宮崎をホスピスに・・・」と願って  
～最期まで住み慣れた地域で暮し、安らかに逝けるまちづくり～

## 【事業内容】

記念講演：演者 上野千鶴子

「おひとりさまでも大丈夫」

シンポジウム：「住み慣れた地域で安心して暮らし、安らかに看取られるために」

シンポジスト

- ・ 迫井正深（厚生労働省老健局老人保健課長）
  - ・・・地域包括ケア（地域で支える仕組みづくり）
- ・ 黒岩ゆかり（宮崎市郡医師会病院内科（緩和ケア）科長）
  - ・・・宮崎の緩和ケア医療のひろがり
- ・ 内田乃里子（家族）
  - ・・・父の介護と母の看取りを経てのわたしの思い
- ・ 伊東芳郎（宮崎市健康管理部長）
  - ・・・わたしの思いをつなぐノート
- ・ コメンテーター 上野千鶴子 ・ コーディネーター 市原美穂

「宮崎にホスピスを」から「宮崎のまち全体をホスピスに」と言う合言葉で、最期まで住み慣れた地域で暮し、安らかに逝けるまちづくりを目指して活動を創めて 16 年、そのプロセスの中で開設された「かあさんの家」が 10 年を迎えた。宮崎市内に 4 軒の民家を借りて、自宅ではないけれどももう一つの家として、5 人の人が共に暮らす居場所である。

そして、かあさんの家の実践は、全国各地にたんぼぼの種のようにあちこちに飛んでいき、20 か所余りの市町村に広がってムーブメントになっている。宮崎の在宅医療の土壌の上に生えてきたともいえる「かあさんの家」であるが、高齢化がますます進む地域で、一人暮らしでも、安心して自分の生を全うできるような街になるために、医療や介護はどうあったらいいのか、何が課題となっているのか、これから自分はどうのように過ごしたいのかを、市民一人一人が考える機会となるように実施した。

基調講演では、一人でも最後まで暮らすことができるのか、日本の現状と課題を示し、全国各地の先見的な事例も踏まえて、これから何が必要だと考えるのか明確に提案された。

シンポジストでは厚生労働省の迫井正深課長に、是非地域包括ケアについてお話しりたいという事でプログラムに追加した。このことが、シンポジウム全体の背景を浮き彫りにすることができた。まず、国の方針が提示され、その後、宮崎の在宅緩和医療がどのように広がってきたのか述べられた。その中で看取りを経験したご家族の物語、そして、これからの宮崎市民の死生観について宮崎市からの提案であった。この順が繋がっている話となり、市民の方々への終末期を考えるための、良いシンポジウムとなった。

## 【開催日時】

2014年9月13日（土）13:00～16:00

メディキット県民文化センター 演劇ホール

\*詳細は、当日のプログラム、広報チラシ別紙参照

## 【開催までのスケジュール】

企画・運営を実行委員会で行った。構成メンバーは、ホームホスピス宮崎理事、ボランティア、宮崎大学医学部学生、かあさんの家の遺族、家族など20名。

第1回実行委員会 5月26日 19:00～20:00

- ・実行委員会立ち上げ打ち合わせ
- ・タイトルやシンポジストの選定について
- ・基調講演は、2月の時点で上野千鶴子氏に依頼し内諾を得ている旨、説明する。
- ・今後の実行委員会のスケジュールを決める。

第2回実行委員会 6月9日 19:00～20:00

- ・プログラムの時間配分とチラシ作製について
- ・名義後援依頼、広報依頼
- ・進行表と担当

第3回実行委員会 7月7日 19:00～20:00

- ・チラシ案の検討（勇美財団助成の決定通知を待って、すぐに印刷にかかれるように）
- ・チラシの配布先、チケットの販売や依頼

第4回実行委員会 7月28日 19:00～20:00

- ・チラシ及びチケットを配布先へ届ける
- ・会員やその他関係団体への送付

第5回実行委員会 8月4日 19:00～20:00

- ・現在の進捗状況について
- ・シンポジストのテーマの確認と正式な依頼文書
- ・チケットの売れ行きの確認

第6回実行委員会 8月25日 19:00～20:00

- ・会場打ち合わせの報告
- ・当日のタイムスケジュールの確認
- ・プログラムの作成準備

第7回実行委員会 9月8日 19:00～20:00

- ・当日の役割分担と配置について
- ・総合司会の園田潤子氏との打ち合わせ
- ・講師（上野千鶴子）とシンポジスト（迫井、黒岩、伊東、内田）の会場入りの確認
- ・お弁当、来賓接待などの手配
- ・当日配布物の搬入と物品確認（不足分アンケート用紙は印刷をして全員配布）



- ・最終チケットの売り上げの数と入場者の把握、車椅子入場者の対応確認
- ・当日ボランティアの確保（ボランティア26名）
- ・“わたしノート”を入場者全員に配布する旨、宮崎市より連絡有り。  
宮崎市民以外にも特別配付。

#### 【当日参加者数】

- ・参加者（シンポジスト実行委員は除く） 691名
- ・アンケート回答者 375名

高齢者の参加者が多かったのは、やはり、これからの生活への不安感があると思われる。また、県外のホームホスピスに関心を持つ方々が、遠くは秋田県、石川県、千葉県、栃木県、東京都、兵庫県、山口県、広島県、大阪府、愛知県、福島県、福岡県、熊本県、長崎県、鹿児島県などから来場されていた。関心の高さに驚かされた。一般に市民の方々が多数であったが、医療関係者、介護事業所などの方々も多く、地域包括ケアへの取り組みに対しての関心度と思われる。

#### 【感想（申請者）】

上野千鶴子さんの「おひとりさまでも大丈夫」は、これからおとずれるであろう社会情勢を大変明確にお話し下さり、ご自身もおひとりさまになるのだと、ユーモアを交えての講演は、聴衆の心をぐっとつかんだ。これまで、どうしても家で自立して暮らせなくなった方々の“とも暮らしの場”を提案してきたが、これからは独居世帯が増えていくことが明確であり、一人暮らしでも家で逝くことのできるまちづくりを目指す上で、10周年にふさわしい素晴らしい講演となった。

またシンポジウムでは、まず厚労省の迫井課長が、公的なサービスには限界があり、地域で芽生えた動きを行政は邪魔をしないで応援していくという立場を発言され、全国で動き出そうとしているホームホスピスにとって大きな力となるだろう。その上で、かあさんの家が宮崎の土壤に生えてきたものであり、その「種」になった宮崎市郡医師会病院の黒岩ゆかり先生からのお話は、緩和ケア病棟が看取りを独占せずにかかりつけ医に返すことで、市内に緩和医療が広がった話であった。そのことを知らない当の宮崎市民の方々から「ほ～」と言う声が上がった。自分の暮す地域のことを本当は良く理解していない人が多いのである。身近な人ががんにならないと知らないことなのだろうか。

ご家族の立場では、内田乃里子さんがお母さんの看取りとお父さんの10年にわたる介護の体験を語ってくださった。ご家族の孤独感、援助者への感謝など説得力があり、一人一人の物語に、援助者は真摯に受け止めなければと感じた。

最後のシンポジストは、宮崎市の伊東部長で、“わたしの想いをつなぐノート”について説明があった。今回は特別に市民以外の方にも来場者全員に配布された。このノートをゆっくり丁寧に市民に広げていくという、行政が10年先を見据えた施策に先見性を見ることができる。10年かけて市民の死生観が醸成されていくことを期待したい。

（公益財団法人 在宅医療助成勇美記念財団の助成による）

【記念講演】 演者：上野 千鶴子  
「おひとりさまでも大丈夫」



撮影：岡戸 雅樹

上野 千鶴子 (うえの ちずこ)

社会学者・立命館大学特別招聘教授・東京大学名誉教授・認定NPO法人ウィメンズアクションネットワーク(WAN)理事長・日本学術会議会員・京都大学大学院社会学博士課程修了。1995年から2011年3月まで東京大学大学院人文社会系研究科教授。専門は女性学、ジェンダー研究。この分野のパイオニアであり、指導的な理論家のひとり。近年は高齢者の介護問題に関わっている。著作に『生き延びるための思想』(岩波書店)、『ニーズ中心の福祉社会へ』(共編、医学書院)、『老いる準備』(学陽書房)、『おひとりさまの老後』『男おひとりさま道』(法研)、『ケアの社会学』(太田出版)など多数。1994年『近代家族の成立と終焉』(岩波書店)でサントリー学芸賞を受賞。2012年度朝日賞を受賞。

【シンポジウム】

住み慣れた地域で安心して暮らし、  
安らかに看取られるために

シンポジスト(登壇順)

..... 厚生労働省老健局老人保健課長 迫井 正深  
「地域包括ケア(地域で支える仕組みづくり)」

..... 宮崎市郡医師会病院内科(緩和ケア)科長 黒岩 ゆかり  
「宮崎の緩和ケア医療のひろがり」

..... 家族 内田 乃里子  
「父の介護と母の看取りを経ての私の想い」

..... 宮崎市健康管理部長 伊東 芳郎  
「わたしの想いをつなぐノート」

コメンテーター ..... 上野 千鶴子

コーディネーター ..... 市原 美穂

日 時 平成26年9月13日(土)

13:00~16:00(開場 12:30)

会 場 メディキット県民文化センター演劇ホール

入場料 1,000円

【主催】特定非営利活動法人ホームホスピス宮崎 【企画・運営】かあさんの家開設10周年記念事業実行委員会  
【協力団体】宮崎市、「新老人の会」宮崎支部、(一社)みやざき公共・協働研究会(順不同) 【名義後援】宮崎県、宮崎市、(公社)宮崎県医師会、(公社)宮崎市郡医師会、(一社)宮崎県薬剤師会、(一社)宮崎市郡薬剤師会、(一社)宮崎県歯科医師会、(一社)宮崎市郡歯科医師会、(公社)宮崎県看護協会、(一社)宮崎県介護福祉士会、(一社)宮崎県理学療法士会、(一社)宮崎県介護支援専門員協会、宮崎キュアケアネットワーク、宮崎県訪問看護ステーション連絡協議会、高齢者ソフト食研究会、朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞西部本社、西日本新聞宮崎総局、宮崎日日新聞社、NHK宮崎放送局、MRT宮崎放送、UMKテレビ宮崎(順不同)

## 【シンポジスト】

迫井 正深 (さこい まさみ)

厚生労働省老健局老人保健課長

平成元年東京大学医学部医学科卒業。東大病院、虎の門病院、蒲原総合病院で外科臨床に従事。平成4年厚生省入省。保険局医療課、大臣官房国際課等に配属。この間、平成7～9年米国ハーバード大学に留学、公衆衛生修士取得。平成18年広島県福祉保健部長(その後、健康福祉局長に改組)。平成21年10月厚生労働省保険局企画官を経て、平成24年9月より現職。

黒岩 ゆかり (くろいわ ゆかり)

宮崎市医師会病院内科(緩和ケア)科長

医学博士(病理学)・日本緩和医療学会代議員・日本病理学会評議員

平成2年慶応義塾大学大学院医学研究科修了。病理学教室助手として、臨床(病理診断)・研究・医学部教育に従事。平成8年国立東京第二病院にて内科系臨床研修。平成10年「かわさき総合ケアセンター緩和ケア病棟」の医長として、緩和ケア・総合診療・在宅医療に従事。平成13年12月宮崎市医師会病院に開設された緩和ケア病棟に病棟専従医として勤務し現在に至る。

内田 乃里子 (うちだのりこ)

家族

伊東 芳郎 (いとう よしろう)

宮崎市健康管理部長

平成6年宮崎医科大学卒業。同年厚生省入省。環境庁、福岡県、厚生労働省健康局、宮崎県、食品保健部、大臣官房を経て平成15年長崎県佐世保市保健福祉部長。平成19年厚生労働省医政局医療計画推進指導官、平成20年同保健医療技術調整官。平成21年宮崎市参事、平成23年宮崎市保健所長、平成24年より現職。

## 【コーディネーター】

市原 美穂 (いちほら みほ)

特定非営利活動法人ホームホスピス宮崎理事長

1969年熊本女子大学卒業。1998年ホームホスピス宮崎設立に参画。2004年「ホームホスピス かあさんの家」を開設。かあさんの家の活動は、2009年NHK総合テレビビューマンドキュメント「最期の家」、2011年テレビ朝日報道ステーション等で全国で紹介される。「宮崎をホスピスに」プロジェクト代表、宮崎大学医学部非常勤講師など。2006年毎日介護賞アフラック賞(毎日新聞社) / 2008年社会貢献者賞(公益財団法人社会貢献支援財団) / 2009年新しい医療のかたち賞(医療の質・安全学会)

### メディキット県民文化センターへのアクセス



#### 宮崎交通バス(橋通方面から)

- 「文化公園」行き 終点「文化公園」下車 → 徒歩1分
- 「宮崎神宮」行き 終点「宮崎神宮」下車 → 徒歩5分
- 「国富・綾」「平和ヶ丘」または「古賀総合病院」行き
- 「文化公園前」下車 → 徒歩1分
- 「平和台」行き 「霧島3丁目」下車 → 徒歩4分



#### JR日豊本線

- 「宮崎駅」からタクシー約10分
- 「宮崎神宮駅」からタクシー約5分  
(徒歩約20分)



#### 高速道路

- 宮崎自動車道「宮崎IC」から  
国道220号線を「延岡・宮崎」方面へ  
車で約20分
- 東九州自動車道「宮崎西IC」から  
国道10号線を「宮崎市内」方面へ  
車で約15分



#### 宮崎空港

- タクシー約30分
- バス(宮崎市街方面行き「橋通り3丁目」乗り換え)約40分

※メディキット県民文化センターには専用の駐車場がありません。  
お越しの際は公共交通機関をご利用ください。



参加希望の方は、参加申込書に記入後、ファックスまたは内容を記載したメールでお申し込みください。

※ 入場料は当日、会場の予約受付にてお支払いください。

※ 定員になり次第締め切りますのでお早めにお申し込みください。

FAX : **0985-53-6054** E-mail : office@npo-hhm.jp

## 参加申込書

氏名	電話	申込日
		月 日
* 緊急時(台風による影響など)の連絡のため、上記電話以外の連絡先(FAX、E-mail、携帯電話など)をこの欄にお書きください。		参加人数
		人

### 【お問合わせ先】

特定非営利活動法人ホームホスピス宮崎

〒880-0913 宮崎市恒久2-19-6 ☎: 0985-53-6056(月～金/10:00～17:00)

最 期 まで ● 自 分 ら し く 過 ご し た い と 思 う あ な た へ



もっと  
安心!

きっと  
大丈夫!

# 暮らしの健康手帳

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団  
The Yuumi Memorial Foundation for Home Health Care